

市政ニュース

「竹野北前館」がリニューアルオープンしました 竹野温泉「誕生の湯」でほっこり

7月18日、竹野北前館（竹野町竹野）がリニューアルオープンしました。

観光振興や地域活性化の拠点施設である同館は、竹野浜に隣接しているため、塩害による設備の老朽化が著しく、3月30日から改修整備を進めてきました。改修にあたっては、バリアフリー化や二酸化炭素排出量の抑制を考えた施設とし、体験型環境旅行の「たけのスタイル」と連動した機能整備も行いました。



▲くす玉を割り、リニューアルオープンを祝う関係者

では、施設指定管理者の株式会社北前館代表取締役の岡崎國男さんが「温泉施設名を竹野温泉『誕生の湯』に改名しました。また、レストランはテラスを整備し、新たに洋食を提供します。竹野北前館を、地域の活性化や観光振興に結び付けていきたいです」と話しました。



▲「誕生の湯」。眼下に広がる日本海

続いて、中具市長は「コウノトリのまちに『誕生の湯』はなかなかいいと気に入っています。これからの竹野は、ペット犬専用のワンワンビーチやペットボトルのイルミネーションのウミナリエなどイベントが続きます。多くの方に竹野の魅力を味わってほしい」と話しました。当日は温泉施設利用者先着500人に、入浴セットをプレゼントしました。

携帯電話不感区に衛星携帯電話を設置 災害時など、頼りになる通信手段です

7月24日、市内10区（豊岡区・三原区、竹野地域川南谷区・銅山区・段区、日高地域大岡区・河江区、出石地域暮坂区・奥山区、但東地域西谷区・奥赤区）に衛星携帯電話を各1台設置しました。

これは、災害時における有線通信手段の途絶により、通信が孤立する可能性のある区（携帯電話不感区）に衛星携帯電話を設置（各1台無償貸与）したものです。

設置には、市職員が直接、それぞれの区長に衛星携帯電話を渡して使用方法を説明し、



▲衛星携帯電話の通信テストをする徳網武男さん

市役所本庁や各総合支所と通信テストを行いました。出石町奥山区長の徳網武男さんは「平成16年の台風23号では、区内で電話が使えず、携帯電話のつながる隣の区まで行き来しました。これで、1つの通信手段が確保でき安心です」と話していました。

図書館日高分館を移転 美しく便利な図書館にリニューアルしました

日高農村環境改善センター2階にあった図書館日高分館を日高総合支所1階に移転整備し、7月22日、竣工式を行いました。

新しい図書館は、所蔵能力が3万5千冊に増え、学習席やお話の部屋も新設しました。より快適になった図書館を、ぜひ利用ください。



▲テープカットに蓼川保育園の園児も参加

主な市政の動き

- 7月
 - 18日・竹野北前館リニューアルオープン
 - 20日・豊岡駅開業100周年記念式典開催
 - 22日・豊岡市副市長候補者公募締切・全国から応募者1、371人
 - 23日・日高駅開業100周年記念式典開催
 - 24日・携帯電話不感区に衛星携帯電話設置
 - 25日・コウノトリ但馬空港フェスティバル'09開催・遭難ヘリコプター捜索優先のため、スカイイベント中止（～26日）
 - 31日・コウノトリ野生復帰学術研究発表会開催
- 8月
 - 3日・市と兵庫県立大学経済学部との連携協力に関する協定書調印式
 - 4日・永楽館大歌舞伎お練
 - 永楽館大歌舞伎公演開催（～11日）
 - 8日・豊岡市副市長候補者第2次選考会

「仲田光成・森田子龍展—書美の巨匠・二人の先駆者—」開催 本市の偉人・まちづくりを東京から全国へ発信しました

豊岡市からは、日本の近代書道界にその名を残す伝統的な書の巨匠・仲田光成さん（竹野町松本出身）と前衛書の巨匠・森田子龍さん（上陰出身）が誕生しています。

二人の書家の功績を顕彰する企画展「仲田光成・森田子龍展—書美の巨匠・二人の先駆者—」を、7月28日から8月2日まで、銀座の東京セントラル美術館（東京都中央区）で開催し、約2、700人が

来場しました。

展覧会では、本市の所蔵コレクションの中から代表作品41点を展示し、豊岡が生んだ二人の巨匠の業績を全国に発信しました。

初日は、書評論の第一人者であり、本展監修者である田宮文平さんを講師に迎え、作品解説会を行いました。

会場の入口近くには、本市PRコーナーを作り、固有の地域資源やノウハウと共に

生きるまちづくりも紹介しました。



▲オープニングセレモニーのテープカット

平成21年度全国高等学校総合体育大会 第53回全国高等学校登山大会開催 山を愛する高校生たちの静かなる熱い戦い!

全国高等学校総合体育大会登山大会が7月31日に開会し、8月1日から3日まで、植村直己の愛した蘇武岳（豊岡市）と氷ノ山・鉢伏山（養父市）の3つのコースで登山行動を行いました。

この大会は速さを競うのではなく、登山隊を編成して解散するまでの間で「高校生として登山技術・体力・知識がどれほど身についているか」という観点から総合的に審査が行われます。各都道府県の

代表選手4人と監督1人の5人で構成した「パーティ」を基本に、男女別・種目別にA〜C隊を編成します。

成績は、他校との競争によるものではなく、日ごろ培った実力をいかに発揮できるかにかかっています。このことから登山競技と言わず、登山大会と呼ばれています。

8月1日・2日ともあいにくの天候となり、厳しい条件での大会となりましたが、107校・535人の参加者

は、力強く山頂を目指し、無事到達しました。



▲山道を歩く選手たち。チームワークも大事です

中貝市長の徒然日記 ②

医療シンポ顛末記

6月、東京大学の安田講堂に行ってきました。観光ではありません。医療シンポジウムに招かれたのです。昨年暮れ、NHKスペシャル「医療再建」に出演しました。収録に6時間かかり、放り映では一言しゃべって終わり、た平成18年に比べて3割減りという顛末は以前の「徒然日記」に書きました。その一瞬間の出番を総務省の担当者が見ました。行政評価委員会に呼ばれました。国の医師確保政策の評価をする専門家の委員会です。では実は先進的なことです。但馬の医療再編の経験などを話したところ、「私たちがやるべきだと言っていることをすべてやっている。感銘を受けた」と感想を述べられたのが、東大の循環器の教授でした。で、その方が私をパネリストに推薦された、という次第です。

平成19年、猛烈に進む医師不足対策として、但馬全体で医療再編を行いました。県の養成医師6人程度を豊岡病院に集約し、総合診療部がつく

られました。

専門分化の方向とは逆に、1人の患者を総合的に診る診療部門です。救急時、担当科がはつきりしない病気でも、まずは総合診療部が診ますので、診療科間のたらい回しがなくなりしました。

独自の医師奨学金制度を豊岡病院組合で設けた結果、対象者は21人になっています。こういった取組みは、日本

では実は先進的なことです。初代東大総長は加藤弘之、第2代は濱尾新、どちらも豊岡出身で、東大の基礎は豊岡がつくったのだと、古老から言われています。「あはは」話の出だしで、受けました。

これでまた市長の出演依頼が増えたらどうしよう、と秘書係が恐れています。



現在の豊岡に
濃尾新の銅像
見せました